

SHIN CLUB 148

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「原宿新天地」 撮影：上田 宏

今月のトーク/monthly talk

白と黒

今月の写真は「原宿新天地」という建物です。この楽しい名前前の建物の設計者溝口健二氏は、白と黒の対比を「出会いの場の象徴」としてデザインされています。「明と暗」ともいえるそれは「キアロスクーロ」という美術手法をイメージされたとのこと。「キアロスクーロ」とはもともとルネサンス期の着彩紙への素描法で、画家が、ベースとなる色紙の上に白のガッシュという絵の具を使って「明」を、暗いインクのガッシュ、水彩をつかって「暗」を表現するものです。16世紀のバロック絵画では、暗い物体が、神を表す一条の光によって劇的に照らされる明暗が人気となり、代表的な画家にカラヴァッジオなどがいます。17, 18世紀になると、ろうそくで照らされた暗部がより細密に描かれた絵画も発達し、その後、立体表現は様々に進歩しますが、現代でもコントラストを強調する写真家、芸術表現は多く見られます。例えば、水俣の写真家として有名なユージンスミスや双子や個性的な人々の写真をとった女流写真家ダイアン・アーバスなど、日本でもおなじみの写真家の写真を連想していただければ、わかりやすいかもしれません。「対比するものの調和」、それは人と人との世界でも同じでしょう。

異なる意見をまとめなくてはならないときに必要なのは、とことん言葉の意味を追及することです。同じ言葉を求めているようで、実は頭の中に浮かんでいることは違っている、誰にも覚えがあることです。なんとなく理解しているものの、人によってイメージはさまざま。まして、どのプロセスが正解なのか、正解がはっきりしない場合は、「白黒ははっきりしてくれ」と言われても単純に物事は進みません。

しかし「心」という理屈では割り切れないものが、それを助けてくれます。お互いを知りたいという気持ちがあるなら敵であれ味方であれ、工夫がなければ始まらないと感じる今日この頃です。

日本には「茶道」という、伝統芸術があります。客を歓待したいという亭主が、お茶をふるまう、と言ってしまえばそれだけですが、そこには、季節を考え、迎える人の立場を考え、もてなし方を変えて、人との関係を作っていく思考が求められます。長い歴史の中、床の花弁と活ける草花、壁にかける額の文字や絵画、お釜や茶碗などの道具、供するお菓子、などそれぞれが工芸品、芸術品として進歩し、住まい方や食生活に大きな影響を与えてきました。白と黒の空間で表現する書道などは、その極みでしょう。

そして「一期一会」などに代表される、人と人との出会いの心の在り様もまた、茶道の重要な魅力の一つです。大人と大人の関係がそこには求められます。礼をつくし、礼に終わる。閉鎖的なようでいて、誰にでも通ずる開かれた考え方があります。

現代では、愛好者のほとんどは女性ですが、織田信長、豊臣秀吉に代表されるように、武家社会（男の世界）でも政治に利用されてきたこともあり、権謀術数とは言いすぎでしょうか、奥深いものがあります。

「わび・さび」なども、自由気ままに贅を尽くすことではなく、限られた条件の中でも精神修養でその価値を極めるという、日本独自の感性です。「欧米では、自身が思う以上に日本人の感性が見直されている」という人もいます。

今月は、施工物件のご紹介で紙面を埋め尽くしてしまいましたが、最終ページでは、立礼式（りゅうれいしき）の茶室を設けた、法律事務所の改装工事をご紹介します。外国人など量の生活になじみのないお客様や正座が難しくなった高齢者の方、自宅に和室のない方たちにも、お点前ができるよう、お茶の世界も広がっています。

原宿新天地



①



②



③

所在地：渋谷区
構造：RC 造
規模：地上 3 階
用途：事務所・店舗
設計：溝口健二
／溝口健二建築設計計画
竣工：2012 年 3 月
施工担当：佐須
撮影：上田 宏

①西側外観。隣接する「アウディ」のビルの裏通路から臨む②北側前面道路に面したファサード。全面ガラス張り、テナントの店舗デザインを十分に示す③黒の外壁に、白の庇やテラスのデザインが際立つ④南側には、アウディの高い建物が聳え立つ。裏通りのゲートも広々としており、住宅街でありながら、ゆとりの空間が生まれている⑤隣地との境界に植えられた 1 本の木が隣地の植栽とともに、階段下のスペースに潤いを与える

「人と人との出会いの場」を生み出す、白と黒のコントラスト

敷地は、明治通りという幹線道路と、キャットストリートという遊歩道に挟まれた一区画の路地に面している。北側にはアウディフォーラムという巨大な建物が建ち、一方、南側の法 42 条二項道路を挟んだ向かいには 2 階建ての木造家屋が建つという環境が、車主体のメガスケールの道路と人間が主体のヒューマンスケールの道路に挟まれた、この敷地の特異性を物語っている。この独特な環境の特異性を建物の構成に反映したいと思い、相反する二つのものがそれぞれ自己主張しながら共存する、そんなコントラストのはっきりした建物をイメージした。

美術の世界の表現方法として「キアロスクーロ」という技法がある。「明暗」のコントラストを強調した構成の手法で、カラバッジョやレンブラント、ルーベンス等の絵画にその技法が用いられている。敷地を見て、始めにイメージしていた事を考えていた頃、この「キアロスクーロ」という技法を思い出し、この建築の構成方法としてこの手法を取り入れることを考えた。

「白と黒」、「荒い肌触り」と「滑らかな質感」、「大きな箱と小さな面」、「開放感と閉鎖性」、そうした二つの事柄が互いを刺激しつつ交差することを目論んだ。スケールの異なる二つの道から人々が流れ、交差し、出会い、集いの場所となる、そんな事を想像しながら設計した。

コントラストを明確に表現するため、できるだけディテールを消す事を考えた。そのために開口部は窓枠を消し、階段の形状もアイコンとして記号化し、建物を抽象化する事を心掛けた。外壁の色は、黒と白とし、白の壁には滑らかな表面（キクスイ機能性塗料：ビュースクリーン）、黒の壁には凹凸のある表面（同じくキクスイ機能性塗料：グラナダ）で質感にも対比をみせた。

完成後、建て主はこの建物を「原宿新天地」と命名された。その名前はこの建物に込められた我々の思いとピッタリとシンクロするものだった。

（溝口 健二氏 談）



④



⑤

安藤ビル 2 号館

商店街活性化につながる、シンプルデザインのテナントビル

浜田山駅前の限られた土地の有効活用として、テナントビルの設計依頼をいただいた。建て主からの依頼は、「成城石井浜田山店」が入るビルに次いで、2 件目である。

出来る限り建築面積を確保するため、用途地域が商業系であるので、外壁を耐火構造とし、隣地境界際まで建てることにした。ただし将来のメンテの際の足場を地所内に建てられることを前提としている。

建物の構造については、コストバランスを考えて S 造を採用した。

外壁材、屋根材については、できるだけローメンテナンスなものを採用している。外壁はフッ素樹脂鋼板仕上げ、屋根はステンレス仕上げとしている。設計側としては、屋根は低フッ素樹脂鋼板に提案したが、辰の提案によりステンレスに変更した。

建物意匠として一番気にかけた点は、テナントビルであることから、サイン掲出があるので、建物はできるだけシンプルにしておくことであった。そんな中でも、単純にして印象に残るものがないかと思い、前面の商店街の通りからも、反対の駅のホームから見ても、ゲート状の、人を呼び込む形態とした。それによって、2 階も天井をかなり高くすることができ、飲食店を想定していたので、気持ちのよい空間になるだろうと思っている。このビルが、商店街の更なる活性化につながればと期待している。

（勝俣 健一氏 寄稿）

所在地：杉並区
構造：S 造
規模：地上 2 階
用途：店舗
設計：勝俣 健一／建築計画研究所
竣工：2012 年 5 月
施工担当：中川
撮影：アック東京



M Project



3代続いた地域の医院の建替え

築 40 年になる診療所と住宅の建て替え工事である。既存の建物は、通りから 20m 程入った狭い路地の右手奥の「木造 2 階建て + RC 造半地下」建物と、さらに奥に連なる木造平屋の住宅 2 棟。

診療所の入口は前面道路から 1m50cm 程度の階段を上らねばならず、高齢を迎えた先代からの患者さんにとっては厳しいものとなっていた。

老朽化した建物は日も当たらず換気も悪く、住環境としては決して良い条件ではなかった。3 代目として診療所を引き継ぐことになった建て主は、お年寄りの患者さんも利用しやすく風通しも良い明るい建物に建て直したいと希望された。

敷地の状況は、工事車両の搬入など厳しい道路付けだけでなく、周囲に 1m 程度の高低差もあり擁壁工事が必要 となった。建物が竣工するまで既存診療所の営業を続けながらの工事となるだけに、近隣や患者さんへの安全面には十分な配慮が必要で、既存建物も搬入路を確保する為に一部解体後も使用するという非常に難易度の高い現場であった。

擁壁工事では、狭小敷地で効果を発揮する「フォーチングレスパネル工法」という基礎の底版部がほとんど無いパネル工法を採用。騒音や振動も少ない工法なので近隣に対して十分に配慮することが出来、工期短縮にも役立った。

新築建物の 1 階は「診療所」と「住居部分」になっているが、気持ちの切り替えが出来るように表と裏の色が違う内部ドアで区分けした。2 階は広く明るいリビングを中心として構成し、書斎コーナーなど趣味色を強調した作

Before



左：階段を上った 1 階が診療所。半地下部分は RC だが、上物は木造。上：北側の木造平屋部分。換気が悪く、匂いがこもりやすかった、と奥様。

りとなっている。ダイニングにはペットのワンちゃんが退屈しないように外を覗ける窓を付け、3 階にはドッグランを広く取りペットと共に楽しく暮らせる家となっている。

北側に開いた既存の作りとは違い、建て替え後では南側のスペースが広く開け、これまでより採光・通風も改善された。建て主が愛犬と共に快適に暮らせる住まいが出来、また診療室・待合室も以前より広くなったことで、今後も快適な医院として、地域の患者さんに愛されることを願っている。

(設計：石毛 満氏 談)

最初の医院は空襲で焼けてしまったので、祖父の代の頃のことはよくわからないが、今でも祖父に診てもらったという 80 代の患者さんが見える。耳鼻咽喉科という言葉もまだない頃、珍しい有床診療所だったようだ。その頃からこの場所で開業していたことは間違いない。

今回大学病院勤務からこの医院を引き継ぎ、さらに患者さんに来て頂きやすい診療所となり、良かったと思う。愛犬もドッグランが大好きで、床もペット専用のものを選んだので元気に走り回っている。

(建て主 M 様 談)

所在地：中野区 構造：RC 造 規模：地上 3 階
用途：診療所・住宅 設計：m.ISHIGE 都市デザイン研究所
施工担当：岩本、田所
竣工：2012 年 6 月 撮影：①石毛満 ②-⑦アック東京



①建物全景。接道側にゲートは設けていないオープンなアプローチ②診療所待合室③診療室④2 階リビング。フロアは建て主が自らショールームで選ばれた住友林業のペット用フロア「シスト S+ワン」⑤3 階テラスのドッグラン⑥住居へのアプローチ⑦M 様の趣味のコレクションが並ぶ書斎コーナー

永田町の事務所移転改装工事

立礼式茶室でお客様を迎える、法律事務所

以前、弊社で「自己責任の家」を建てられたH様より、このたび日本橋の事務所から永田町のビルへの移転改装工事を拝命しました。事務所成長のためですが、オフィスの賃料相場が下がっていることもあり、2倍の広さを確保することができたということです。特徴的なのは、立礼式の茶室をオフィスに設けられたことです。H様にお話を伺いました。「遡れば8年前に盆栽を始め、そのときから『盆栽をやるなら、まずお茶をやりなさい』というアドバイスを受け、以来長年お茶をやりたという気持ちを持っていました。今年に入り、麴谷宏先生から東大寺二月堂で『桜とワインの茶会』にお誘いいただき、それをきっかけに北見宗幸先生にお稽古をしていただくようになりました」

「事務所に茶室を置くことにしたのは、自分の精神修養にもよく、お客様とも一層親密な関係が構築できると思ったからです。細かいデザインは辰の紹介で牧野令さんをお願いしました。低い卓の高さに腰壁を合わせていただき、床の間のライトも絶妙です」

モダンリビングにぴったりの立礼式の茶室。新しいオフィスで皆様、益々お仕事に張り合いが出ることでしょう。



法律事務所改装工事
所在地：千代田区
構造：SRC造
規模：地上9階の6階部分
用途：事務所
基本プランニング：H様
実施設計およびデザイン：牧野令
お引渡し：2012年6月
施工担当：中村

①エレベーター前のエントランス。向かって右側の扉を開けると広々としたスタッフ執務室。向かって左側には、最大16人掛けの会議室のほか3つの会議室。そして、立礼式の茶室が入っている②一番大きな会議室。会議室はすべて廊下側の壁の上下に複層ガラスを貼り、中央はガラスワールで防音した壁にダイノックスシートを貼っている③窓の外に高層ビルがそびえ立つ中会議室④会議室の廊下は隣り合う扉をアルコーブにし、変化をつけている。カーベットも落ち着いた濃い色にし、室内とはゾーニングしている⑤茶机（ちゃき）の入る前の茶室。右側が収納で小窓を明り取りに設け、左側が床の間。鉛仕上げの壁に、間接照明が映える⑥武者小路千家の千宗屋（せん・そうおく）氏と桜製作所の共同製作による現代空間に溶け込む茶机「天遊卓（てんゆうじょく）」が入った室内

TOPICS/INFORMATION

「百人町の家 新築工事」上棟式 2012年5月13日



構造：RC造
規模：地上3階
用途：専用住宅
設計：岡本欣士
完成：2012年6月

建築家の自邸です。無事竣工いたしました。
次号でご紹介予定です。

「（仮称）M3 新築工事」 地鎮祭 2012年6月18日



構造：RC造
規模：地下1階、地上4階
用途：集合住宅
設計：ミリグラムスタジオ
一級建築士事務所
完成予定：2013年3月

長年、お住まいの土地に建てる、最上階がオーナー邸の集合住宅です。

編集後記

・新しいお茶室のあり方、見せていただきました。

(株)辰 通信 Vol.148 発行日 2012年7月10日 編集人：松村典子 発行人：森村和男

東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL: http://www.esna.co.jp